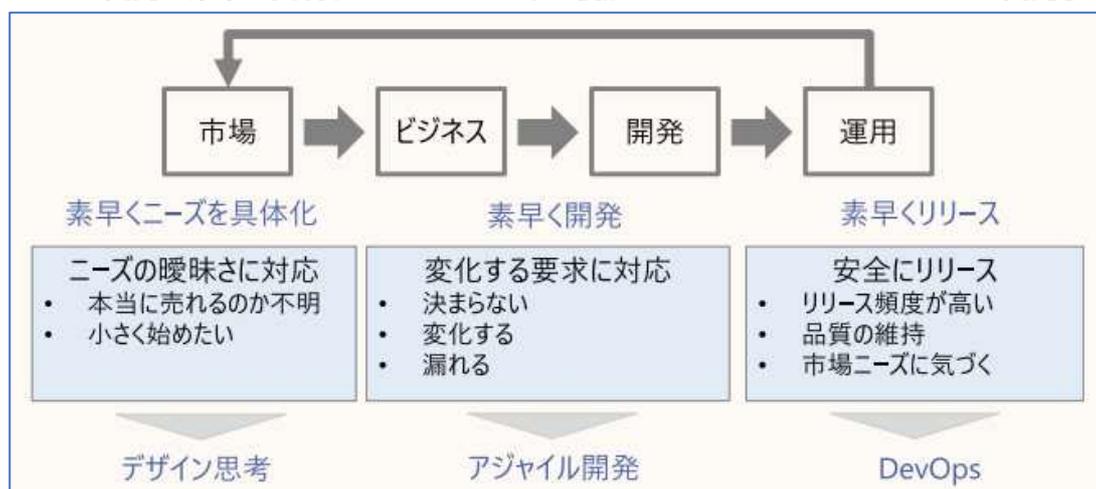


4. 解説：「アジャイル」とは

「アジャイル(agile)」は「素早い、機敏な」という意味である。「アジャイル」なる用語が普及したのは、ソフトウェア/システム開発において、従来の「ウォーターフォール型開発手法」では、開発に時間を要し、仕様変更等への迅速な対応が難しく、手戻りコストも高つくため、ユーザの声を聞きながら、システム開発/投入が素早くタイミングよくできる「アジャイル型開発手法」[Rapid Application Development の総称] が注目されるようになったことによる。



サービス開発を素早く実現するためのビジネス視点におけるプロセスとシステム 開発手法



出典：DX 白書 2021 第4部 DXを支える手法と技術 2021年12月1日 (独法)情報処理推進機構

<https://www.ipa.go.jp/files/000093702.pdf>

その背景には、「VUCAの時代」(Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性)と云われる事業環境の変化の激しさがある。加えて、昨今のビジネスモデル(イノベーション)はソフトウェア/システムそのものであり、新しいサービス/機能が動くかどうかのテストをする前に、新しいサービス/機能が世の中に受け入れられるかのテスト(市場投入)の方が重要となる。中国では、更に激しく、「アドホックモデル(その場限りの対応モデル)/プロトタイプ」レベル段階で市場投入され、市場で淘汰(評価)されている。

資料：成功した一発以外は“多産多死” チャイナ・イノベーションのスピード感を支える「野蛮な戦略」とは？(1/5) 2020年08月31日 Itmedia <https://tinyurl.com/y78694sg>

プロジェクトマネジメントの世界標準とされる「PMBOKガイド」においても、第6版(2017年)で、イノベーション創造プロジェクトの増加に対応するため、「アジャイルや反復手法」を取り込み、第7版(2021年)では、急速な変化対応に、よりスピーディに対応するため、これまでの“プロセス重視”から“プリンスプル(原理・原則)重視”へと大きくシフトしている。